

インバウンドが再開し
たらずに返るのははます
リピーターだろう、とい
う予想が完全に外れた。

コロナ禍前と比べた20
23年の傾向は、①滞在
日数の増加②初訪日の割
合の増加③三大都市圏で
の滞在者の増加④の三つ
が挙げられる。

まず、滞在日数の増加
については、長期間、旅
行できない時期があった
ことの反動で一時的に消
費が活発になったこと、
2019年比で為替が30
%程度円安になったこと
などが要因にあると思わ
れ、これが定着するかは
分からない。一方で、J

インバウンド再開1年の英国

2023年 英国からの延べ宿泊者数
2019年比の伸び率

	都道府県	伸び率
1位	富山県	+44.5%
2位	長野県	+29.8%
3位	石川県	+27.6%
4位	茨城県	+26.2%
5位	大阪府	+25.3%

※宿泊旅行統計調査を基に日本政府観光局が作成

三大都市圏
への滞在の集
中は今後の大
きな課題だ。
観光庁の宿泊
旅行統計によ
ると、地方部
に滞在する割
合は2013
年から201
8年にかけて
1.5倍に伸

びたが、2023年は特
に東京、京都、大阪、つ
まりはゴールデンルート
での滞在に逆戻りしてい
る。初訪日の割合が増加
したことに加え、関西国
際空港への直行便が復便
していないことなども影
響している可能性がある
。秋以降は地方部での
滞在が復活する気配があ
るが、いずれにしても、
大幅に増加した滞在日数
を地方部に十分に取戻

いる。消費者の関心に敏
感なメディアは次々と日
本の特集記事を出してい
る。2023年9月には
大手旅行雑誌『ナショナル
ジオグラフィックトラ
ベラー』が別冊で100
ページにわたる日本特集
号を発行した。インバウ
ンド再開後はリピーター
が中心になると予想し
ていたところで、初訪日
の増加はうれしい誤算だ
った。今回初訪日の旅行
者は翌年以降のリピータ
ーとなってくれるはず

で、英国市場の伸びはさ
らに加速するだろう。

めていないのはもった
ない。オーバーツーリス
ム対策の観点からも地方
誘客に一段と重点を置く
必要がある。

必要がある。
なお、地域ごとに見れ
ば結果はさまざまで、岩
手、宮城、茨城、富山、
石川、長野、静岡、徳島
など滞在者数が大きく伸
びた地域もある。岩手は
『ニューヨーク・タイム
ズ』の「2023年に行
くべき52カ所」に選ばれ

(月1回掲載)

「リピーターから回復」予想外れる

初訪日の増加は、20
19年からの4年間で訪
日旅行への関心がいかに
高まったかをよく表して

る。秋以降は地方部での
滞在が復活する気配があ
るが、いずれにしても、
大幅に増加した滞在日数
を地方部に十分に取戻

たことが大きかったの
ではないか。富山は202
2年度から英国でのプロ
モーションに力を入れて
おり、その成果が早くも
現れている。また、東北
では特に冬期の需要の伸
びが目立つ。英国からの
スキー旅行はおのずと海
外旅行になる。あくまで

「そういうこともある」
という程度の話だが、英
国の旅行会社の中にはE
U域内のスキー場で宿泊
施設を運営しているもの
もある。英国の従業員を
スキーシーズンだけEU
域内の宿泊施設で勤務さ
せるという運用がBre
xit(英国のEU離脱)
の影響で2021年以降
の難しくなり、宿泊施設を
手放したところもあった
ようだ。日本が同じ土俵
で勝負できるのはこれか
らなのかもしれない。ス
ポーツは旅行の強い動機
付けになる。地方誘客を
進める一つの軸として注
目していきたい。